

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	判定基準	備考
① 組織的なキャリア教育の取組の推進	① 一般就労や職場実習先開拓として企業訪問を行う。	進路支援課	奥能登という地域性もあり、障害者雇用義務のある50人以上の企業が極めてすくない状態である。また、学校としての知名度も低く障害者への理解も地域としてはまだまだである。受け身の状態でいても環境は変わらないので学校の存在を知ってもらう意味でも企業や事業所の訪問数を増やしたい。	[成果指標] 今までの実習先、訪問先以外に10社以上訪問する。	5段階の評価 A：10社以上 B：8～9社 C：6～7社 D：5社以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に訪問社数で評価する。
② 特別支援教育の専門性と指導力を高める校内体制の充実及びセンター的機能の充実	① スマートスクールネットを閲覧して授業に活用したり、輪島分校として教材等を投稿したりして、指導力の向上を促す。	学習支援課	スマートスクールネットは石川県内の学校を対象として教育情報を提供し、授業作り等について交流を支援するWebサイトである。昨年度までに輪島分校職員の事例も投稿されているが、検索して活用することはまだ十分に進んでいない。	[成果指標] 活用状況を点数化し評価する。 1点 Webサイトを閲覧した 2点 スマートスクールを活用し授業や活動を行った 3点 教材教具や授業の単元の流れなどの教育情報を投稿した	職員（16名）の合計が A：46点以上 B：30～45点 C：16～29点 D：15点以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に点数で評価する。
	② 地域の関係機関や外部専門家と連携し、校内外で専門性と指導力を高める研修会を実施する。	自立支援課	今年度、小学部に難聴児の入学があり、手話等のサイン言語について全職員で共通理解する必要がある。外部専門家活用による研修会等、校内外での専門性と指導力の向上に努めたい。	[成果指標] 研修会を実施した回数で評価する。	研修会の回数が A：8回以上 B：6～7回 C：4～5回 D：3回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	研修会の回数で評価する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	判定基準	備考
③ 地域の 学校との 交流の 促進	① 門前高校校舎への移転に伴い、門前高校、門前中学校、門前東小学校など近隣の学校と、各学部で、または全校で様々な交流を図る。	学習支援課	昨年度は高等部、中学部、小学部ともに門前の学校をはじめ近隣の学校とも交流を7回行い、内容の充実を図ってきた。今年度は距離も近くなるため、近隣との学校と新たな交流も期待できる。	[成果指標] これまでの交流の形だけでなく、新たな交流の形も模索しながら、各学部での交流や学校全体での合同開催などを回数で評価する。	各部、全校での交流や活動が A：13回以上 B：10回～12回 C：7回～9回 D：6回未満	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に回数で評価する。
④ 学校安全 教育及び 環境教育 の推進	① 児童生徒の健康の保持増進のため、家庭との連携を密にし、健康教育と感染症対策等の充実、向上を図る。	生活支援課	昨年度は、学部ごとに保健指導を定期的実施してきた。今年度はそれにプラスし、家庭と連携し、学校・家庭どちらかではなく同じ指導ができるよう、指導後には保健だよりを発行し、連携を深めていきたい。	[成果指標] 家庭向け保健だよりの発行回数、ホームページ掲載回数で評価する。	家庭向け保健だより、ホームページ掲載回数 がともに A：20回以上 B：15回 C：10回 D：10回未満	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末回数で評価する
	② 門前高校との交流を通して、地域の里山、里海と関わり合う活動を行う。	生活支援課	本校は「いしかわ学校版ISO」と「いしかわ版里山づくりISO」に認定され、学校周辺の環境を利用しての原木しいたけの栽培や自然環境を活かした授業実践が積み重ねられている。	[成果指標] 門前高校との環境教育に関する交流活動を行った回数で評価する。	交流活動した回数が A：5回以上 B：3～4回 C：1～2回 D：未実施	C評価以下であれば原因を分析し、取組の見直しをする。	年度末に回数で評価する